

Q 「ファミリー・サポート・センター」設置への考えは

A 今年度中にアンケート調査を実施し 精査する



松浦和子議員

め、今年度中にアンケート調査を実施し、結果を踏まえてファミリー・サポート・センター事業を含め、子育てのニーズに反映できるように精査したい。

問

厚生労働省の子ども子育て政策の一つに子育て援助活動支援事業ファミリ・サポート・センター（相互援助組織）事業がある。県内59市町村の12市9町4村で実施している。援助を受けた会員登録と、援助を行いたい登録会

員がアドバイザーのマッチングにより相互援助活動を行うものである。子育て支援をより一層充実させるために必要と考えるが町の考えを伺う。

幼児教育課 課長

平成32年度に第2期子ども・子育て支援事業計画が改訂になるた

家庭訪問型子育て支援「ホームスター」に取り組み考えは

問

ホームスターとはイギリスで45年前に始まった家庭訪問型子育て支援で、初めての出産で不安な妊産婦や未就学児の子どもがいる家庭で、子育てに悩んでいる保護者に寄り添う支援であ

り、研修を受けたボランティアが家庭訪問している。この活動をどう考えているか。

幼児教育課 課長

日本では約10年前より、NPO法人が中心となり普及活動を進めている。核家族の進歩や人間関係の希薄化で育児不安を抱える保護者が増える中で、素晴らしい事業だと考える。

問

県でもホームスター事業の普及支援の意思表示をしている。町として、未就学児のいる家庭に寄り添った支援を行う考えは。

教育長

現在、町では赤ちゃん訪問などに取り組んでおり、家族に寄り添った事業になるよう「子育て世代包括支援センター」の設置に向け、今年度、町と教育

委員会が連携し取り組んでいる。

保健福祉課 課長

母子保健事業について、妊産婦支援台帳の作成・整備ができていくところが町の強みである。子育て家庭を訪問し支援する際、この相談の記録によって困りごとなどを把握し対応している。

問

ホームスター事業を実施している県内10市町村のうち、1市が社会福祉協議会に事業委託している。社会福祉協議会の役割は範囲が広く、高齢者支援に加えて、子育て支援もある。社会福祉協議会に子育て支援事業を委託する考えがあるのか。

保健福祉課 課長

社会福祉協議会への事業委託は、対象者数の関係で、高齢者や生活困窮者寄りになっている。今後は児童福祉事業も検討すべきと考えているが、町の社会福祉協議会が受託可能かどうかも含めて、新しい子育て支援計画の中で検討していきたい。また、当該の社会福祉協議会の考えについても確認する必要がある。



町の乳児健診の様子

Q 大雨被害に備え河川改修の要望をすべきでは

A 早期改修に向け強く要望していく

問

今年は今全国各地で大雨による被害があった。当町でも、山崎滝山原地内の滝川沿いは住宅と河川が近接している上に堤防もなく、大雨による氾濫で家屋が流されてしまう恐れがある。早期改修に向け県に強く申し入れるべきではないか。

町長

今年7月の西日本豪雨では、堤防の決壊や河川の氾濫により、大きな被害が発生しており、改めて治水事業の重要性が再認識されている。国見町でも、今年8月10日の豪雨により、町内の一部で浸水被害が発生している。山崎滝山地区では、町内会から

も改修についての要請が出されている。町としては、今年7月に県との調整会議があり、改修の要請と現地調査が行われ、早期改修について強く要望を行っている。滝川の改修、

安全安心を担保することは重要な課題であり、今後とも、県管理の河川等の改修が必要な箇所の情報については、いち早く連絡調整を図るなど、県と十分連携を図り、改修が早急に実現されるよう、引き続き粘り強く要望していきたい。

問

普蔵川沿いについて、国道4号から塚野目地区上流までの改修は行われているが、塚野目地区から徳江地区の部分については被害に遭った箇所のみでの改修に止まっている。県に改修の要望をしているのか。

建設課長

議員の指摘のとおり、改修が進んでないところが、蛇行が著しく護岸の洗掘や崩落箇所があるため、県に改修を要望しているが、十分な対応には至っていない状況にある。県では、止軽減を優先するため、普蔵川は背後地が高く人家への被害は少ないことから、早期の改修は難しいと回答を得ている。町としては、今後も滝川と同様に、改修を粘り強く要望していきたい。



村上正勝議員



住宅と近接する滝川



改修が望まれる普蔵川